

内外の化学繊維生産動向

－ 2014年 －

2015年3月17日

日本化学繊維協会

本資料の2014年の数値は、至近の発表値をもとに日本化学繊維協会
で推定したものです。

1. 世界の繊維生産

表-1 世界の主要繊維の生産

(1000ト)

	全繊維	化学繊維			綿	羊毛	絹
		合繊	セルロース				
2008	64,429	39,712	36,946	2,766	23,400	1,196	121
2009	65,523	42,392	39,379	3,013	21,896	1,108	127
2010	73,825	47,685	44,424	3,261	24,872	1,128	140
2011	79,482	50,926	47,336	3,590	27,284	1,140	132
2012	83,023	55,088	50,829	4,260	26,670	1,133	132
2013	86,285	58,709	53,921	4,787	26,280	1,159	138
2014	88,610	61,239	56,348	4,891	26,080	1,153	138
14/13(%)	2.7	4.3	4.5	2.2	-0.8	-0.5	0.3
構成比(%)	100.0	69.1	63.6	5.5	29.4	1.3	0.2

日本化学繊維協会推定

綿、羊毛は季節年度

- 2014年の世界の主要繊維生産（推定）は前年比3%増の8,861万トと史上最高を記録した。
- 化学繊維は前年比4%増の6,124万トと過去最高となった。このうち合繊（オレフィン繊維を除く）は5%増の5,635万ト。セルロース繊維（アセテートトウを除く）は2%増の489万トといずれも増加した。
- 化学繊維の生産は、2009年以降6年連続で拡大した。また繊維全体に占めるシェアは69%と前年比1ポイント上昇した。
- 天然繊維は、綿は米国やパキスタンなどが増加となるものの、ブラジルやオーストラリア、中国などが減少し、全体では1%減の2,608万ト。羊毛は、主要産毛国のオーストラリアが減産の見通しであることから、世界全体では0.5%減と減少の見込み。

図-1 世界の主要繊維の生産

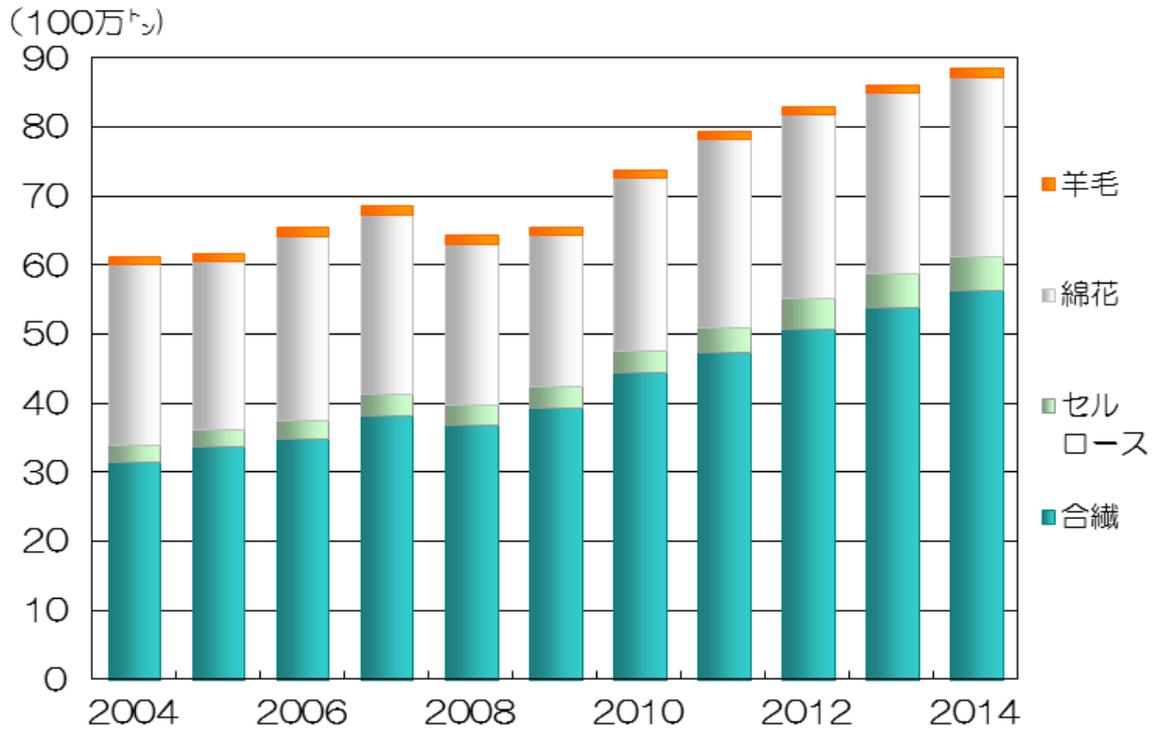
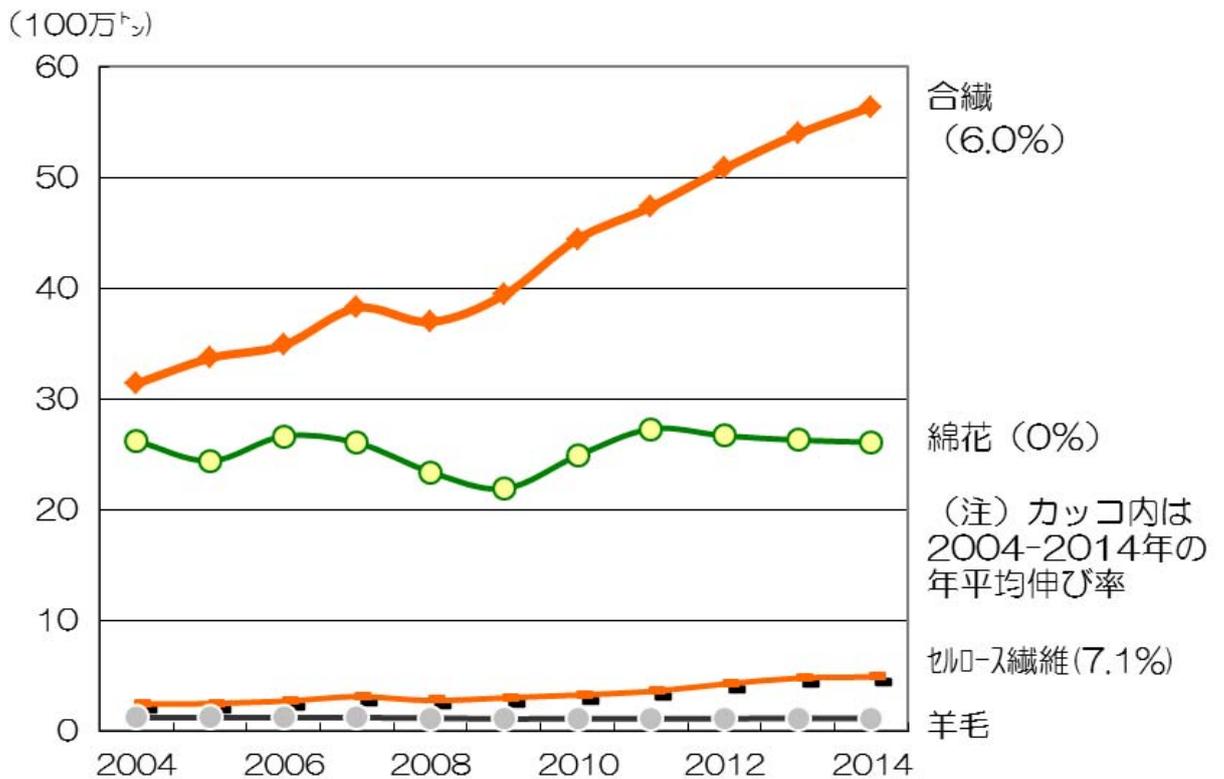


図-2 世界の主要繊維の生産推移



2. 世界の化学繊維生産

- 主要国・地域別に化学繊維生産をみると、最大生産国の中国は前年比7%増と増加幅は縮小したが、依然増加が続いている。その他の主要生産国・地域は一部を除いて概ね減少となり、中国の伸びは鈍化したものの同国への一極集中傾向が続いている。

表-2 主要国・地域の化学繊維生産(2014年)

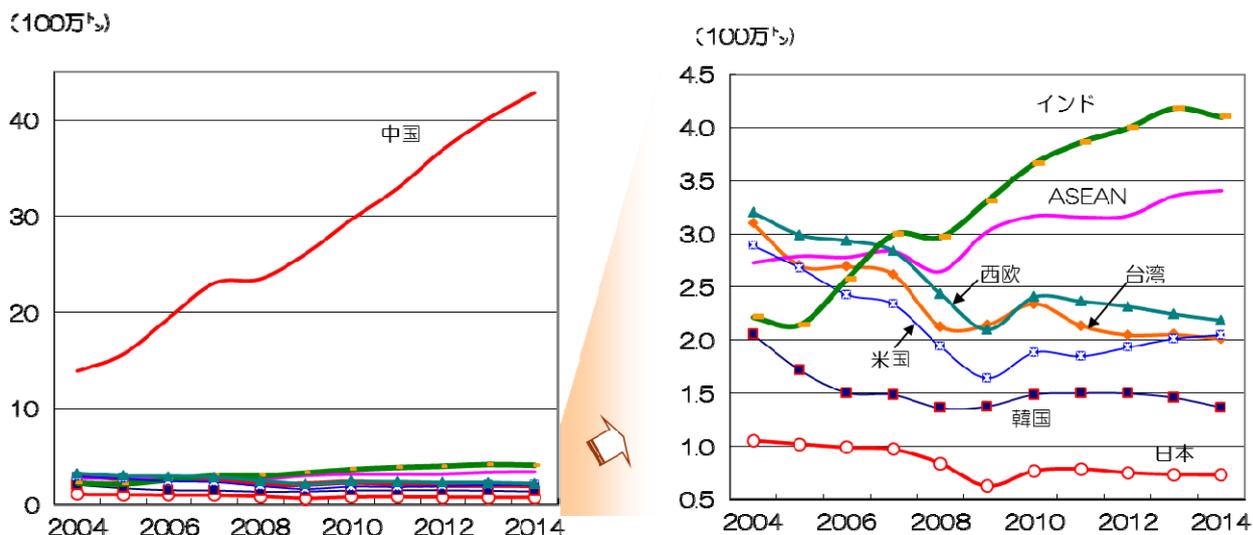
(1000ト)

地域	ポリエステル		ナイロン	アクリル	合織 計	セルロース 計	化織 計	構成比 (%)
	フィラメント	ステープル	S+F	S				
日本	136 -10.3	147 2.6	99 2.8	141 -4.4	670 -0.7	62 1.2	732 -0.6	1.2
韓国	659 -11.2	543 1.9	115 -10.5	50 -8.6	1,367 -6.2	- -	1,367 -6.2	2.2
台湾	925 -0.5	547 -1.6	353 -2.1	64 -6.1	1,888 -2.3	125 4.9	2,013 -1.9	3.3
中国	25,783 7.8	10,027 5.7	2,370 11.5	677 -2.5	39,656 7.0	3,214 2.2	42,870 6.6	70.0
ASEAN	1,496 1.5	1,065 1.8	187 0.6	122 -2.6	2,869 1.4	539 1.8	3,409 1.5	5.6
インド	2,392 -4.4	1,047 1.4	102 5.5	101 0.6	3,643 -2.5	455 2.0	4,098 -2.0	6.7
米国	638 3.2	653 1.3	603 0.9	- -	2,022 1.7	27 0.4	2,048 1.7	3.3
西欧	382 0.4	522 -2.1	341 -2.1	512 -4.3	1,757 -3.7	429 2.2	2,186 -2.6	3.6
世界計	32,986 5.4	15,733 3.9	4,571 5.3	1,923 -3.1	56,348 4.5	4,891 2.2	61,239 4.3	100.0

(注) 1.上段は生産量、下段は前年比(%) 2.推定を含む
3.オレフィン繊維、アセテートトウを含まない

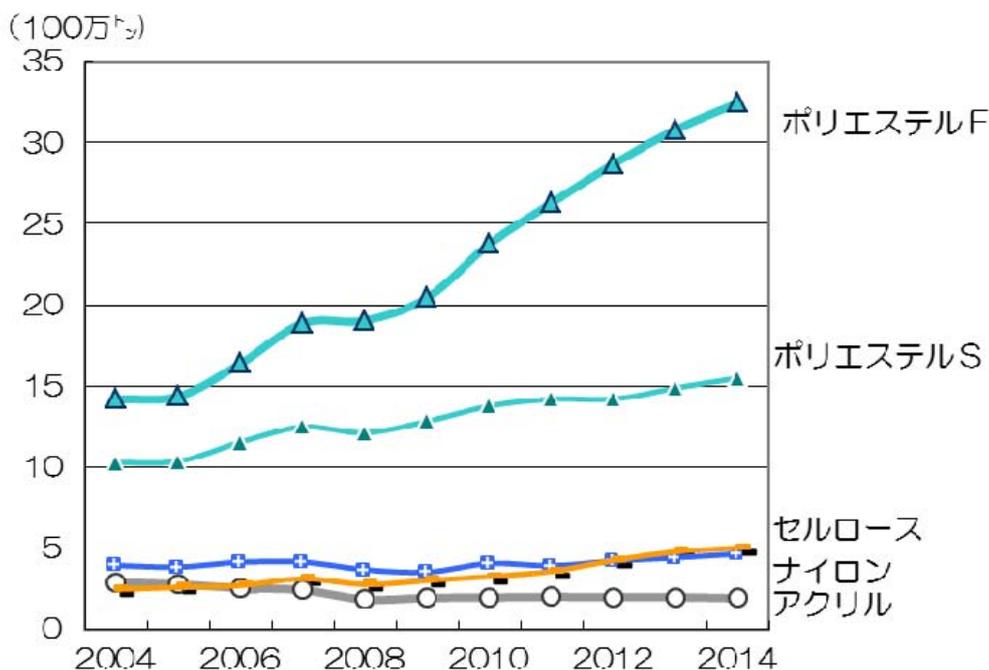
- 中国は7%増の4,287万ト。世界生産に占める割合は主要生産国の多くで生産が減少したこともあり、前年の68%から70%に拡大した。合織は7%増。ナイロンが12%増、ポリエステルはフィラメントが8%、ステープルが6%増加した。セルロース繊維は2%増となった。
- その他の主要生産国・地域は、ASEAN、米国が2%弱増加したものの、総じて減少した。日本は0.6%減と微減、台湾、インド、西欧が2%前後の減少、韓国は6%減となった。

図-3 世界の主要国・地域の化繊生産



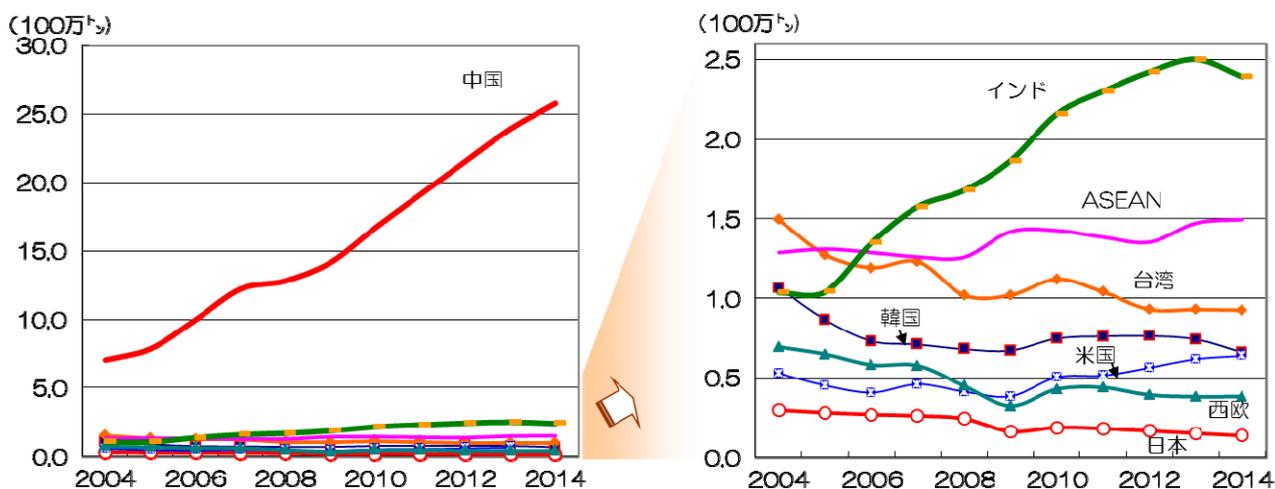
- 主要品種別にみると、ポリエステルおよびナイロンは4～5%増の増加となったのに対し、アクリルステープルは減少した。
- ポリエステルは、フィラメントが前年比5%増の3,299万ト、ステープルが4%増の1,573万トであった。フィラメント、ステープルをあわせたポリエステルの化繊生産に占める割合は80%と2013年から1ポイント上昇した。
- ナイロンは5%増の457万ト。うちフィラメントは中国が大幅に増加（12%増）したが、米国が微増（1%増）、西欧（2%減）、台湾（2%減）、韓国（11%減）などが減少したことから全体で5%増にとどまった。同ステープルは2%増。
- アクリルSは3%減の192万ト。主要生産国の中国（3%減）や西欧（4%減）を中心に、多くの国・地域で減少した。
- セルロース繊維（レーヨン、アセテート、キュプラ）は2%増の489万ト。中国が2%増であったほか、アジア、欧米いずれの主要国・地域でも増加した。同繊維の2004～2014年の年平均伸び率は7.1%で、合繊の6.0%を上回っている（図-2）。

図-4 世界の主要化繊品種の生産推移



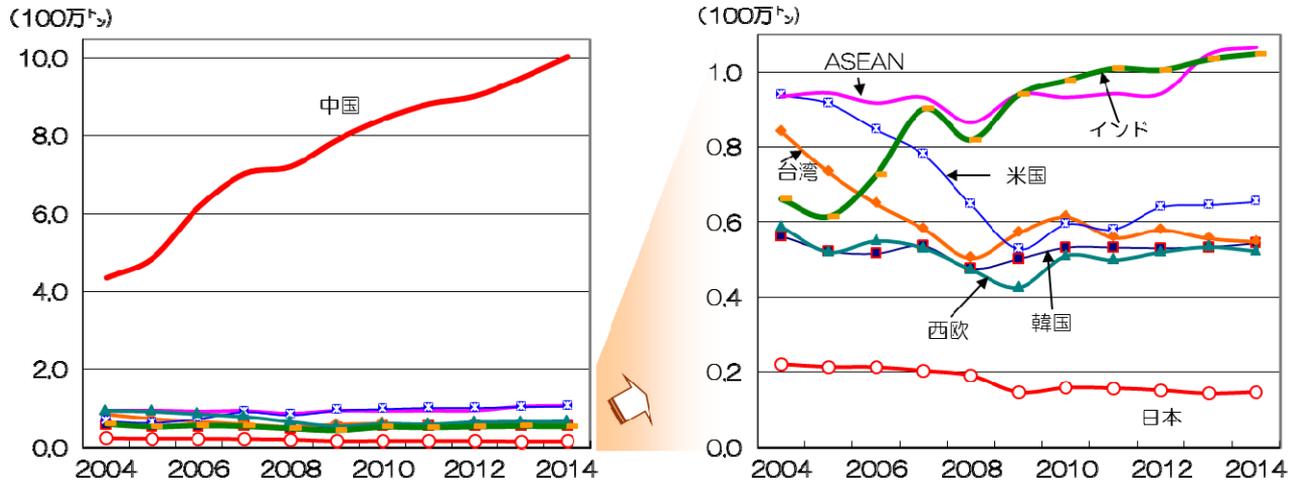
- ポリエステルF：前年比5%増の3,299万トと過去最高を更新した。供給過剰問題が取り上げられる中国は8%増と依然増加傾向にある。また米国はカーペット用が引き続き堅調で3%増となった。一方、日本、韓国、台湾、インドは減少した。

図-5 世界の主要地域別ポリエステルF生産



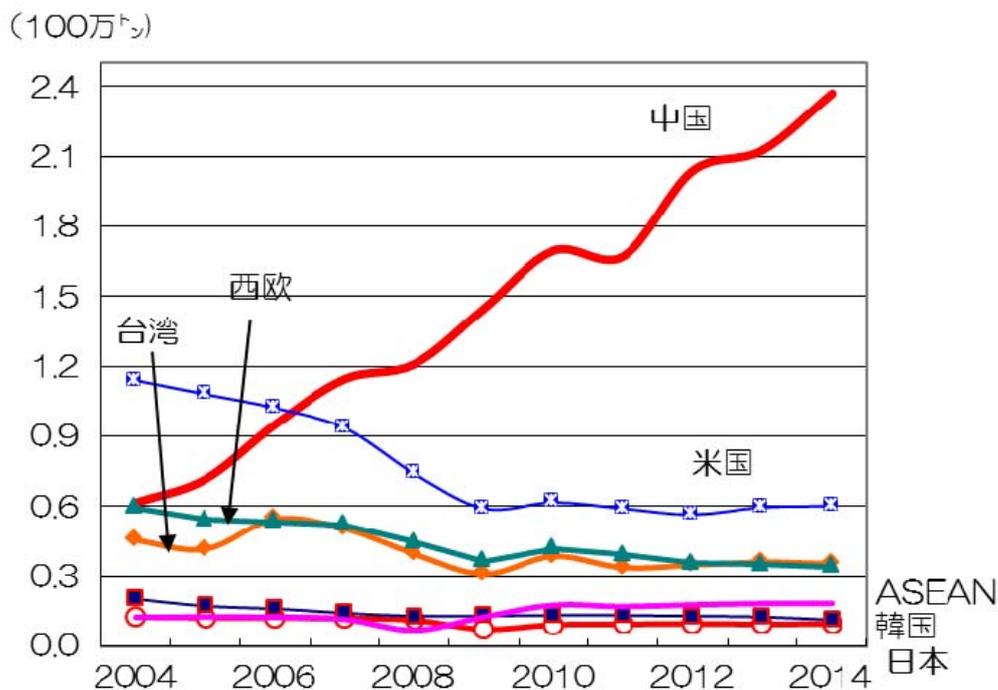
- ポリエステルS：前年比4%増の1,573万ト。中国が6%増となったほか、日本、韓国が2~3%増、米国、インドも増加した。一方で、台湾、西欧がいずれも2%減と減少した。

図-6 世界の主要地域別ポリエステルS生産



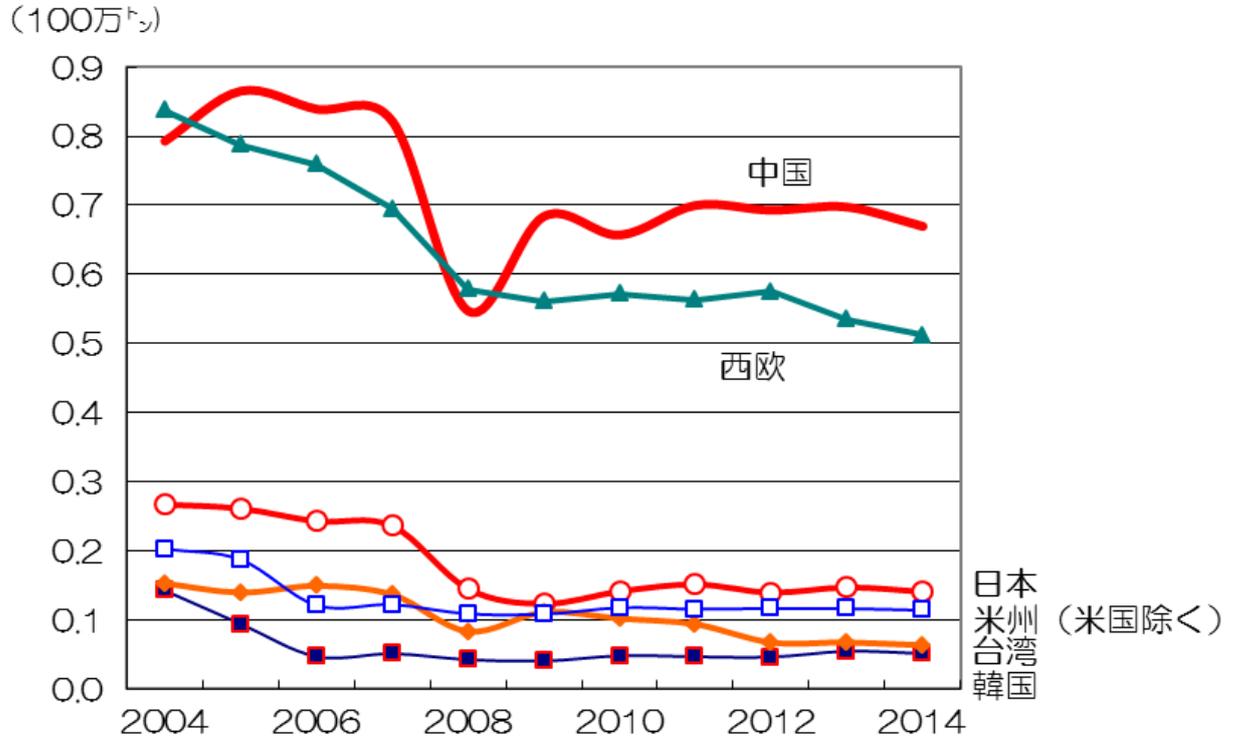
- ナイロン：前年比5%増の457万ト。中国が12%増と大幅に増加しており、拡大基調が継続する見通し。米国はカーペット用の増加は続いているが勢いは鈍化、西欧は衣料用が不振で減少した。

図-7 世界の主要地域別ナイロン生産



- アクリルS：前年比3%減の192万ト。インドが0.6%増と横ばいであったものの、その他は主要生産国の中国が内需不振の影響で3%減少、西欧も4%減となるなど世界全体で減少した。

図-8 世界の主要地域別アクリルS生産



3. 日本の化学繊維生産

- 2014年の日本の化学繊維生産は前年比微減（0.4%減）の98万トン(オレフィン、アセテートトウを含む)となった。内訳は合繊が1%減少したのに対し、セルロース繊維が2%増加した。

表-3 日本の主要化学繊維の生産

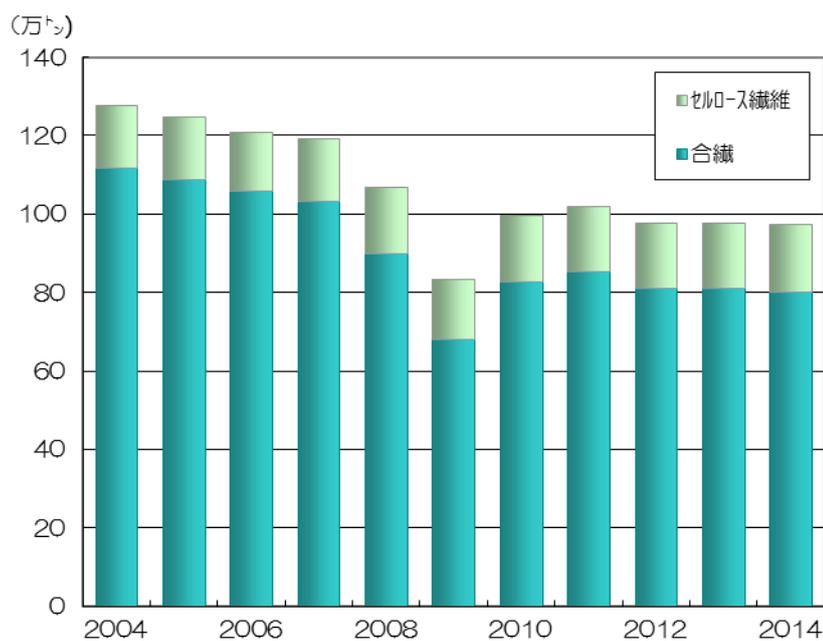
(1000トン)

	2011	2012	2013	2014	14/13%
ポリエステルF	180.8	167.0	151.3	135.7	-10.3
ポリエステルS	157.1	151.5	142.8	146.6	2.6
ナイロンF	95.0	98.1	95.4	98.0	2.8
アクリルS	151.6	139.9	147.3	140.8	-4.4
ポリプロピレン	120.8	120.8	131.5	129.3	-1.6
合繊計	854.4	811.4	812.2	804.7	-0.9
セルロース計	167.9	168.7	167.5	171.1	2.1
化繊計	1,022.3	980.1	979.7	975.8	-0.4

(出所) 経済産業省

(注) オレフィン、アセテートトウを含む。

図-9 日本の化学繊維生産推移



- 合成繊維の生産は1%減の80万ト。主要品目ではポリエステルSが衛生材料向けが好調であったことから3%増の14.7万ト、またナイロンFはエアバッグ向けが堅調に推移して3%増の9.8万トとなった。
一方、ポリエステルFは企業の一部撤退もあり10%減の13.6万ト、アクリルSは中国向け輸出が減少したことから4%減の14.1万トとなった。
- ポリエステルSの生産が同Fを上回ったのは1983年以来31年ぶり。
- セルロース繊維の生産は2%増の17万トであった。

図-10 日本の主要化合繊生産

